

るにあり尙ほ此法の大意を表に依つて示すこと右の如し

右收銅法は獨り收銅のみを目的とせば或は複雑の嫌無き能はずと雖とも殘滓中の銅分及硫分を除去し貴重なる副製品即ち製鐵の原料を得るには最も便利なる方法と信す然れとも該法は未だ實地に應用したること無きか故に予は命を報し野呂博士と同伴し別子銅山に到り同博士の示定する所の方法に據り試験を施したるに極めて好結果を得たり今其詳細を陳述すること左の如し (今泉氏報告未完)

拔 萃

● 鎔鑛爐の衝風に使用するターボブロワーに就て (承前)

(From Bulletin of the American Institute of Mining Engineers. May 1914.)

J A 生

○ 往復蒸気機關の操業

現在据付けてある様な装置に於ては、百五十封度以下の指示氣壓で、真空も二十七吋を超えない様にするのが普通である、而して往復動機關に在りては、之れ以上の壓力、溫度(或は真空)が、鎔鑛作業に於て、好結果を以て適用しられないことを承認せねばならぬ、故に吾人は、如斯機關に在りては、蒸気消費量が鎔鑛爐衝風狀態の下に於て、一指示馬力に付き、十三封度、或は一車軸馬力に付き、十四・一五封度より少なからざるものと假定せねばならない、次に論ずる如く以上の假定は、左程精密なるを要しない、何となれば、燃料消費の點に於て、此の種の機關と他種の機關との消費量を同一ならしめんとせば、往復動機關の蒸気消費量は、目的の如何を問はず、今日迄作られたる最良の機關を以て、從來使用せられ